

新スタッフの紹介★小川 律子さん（2019年4月より）

★ NPO との関係

東京 YWCA 会計及び東京 YWCA 専門学校総務課で勤務しておられました。退職後少し時間を置いて今年度から NPO に来ていただきました。事務局スタッフと同世代。和気あいあいと、かつ仕事はテキパキと、すっかり事務局になじんでいます。

★ 趣味など

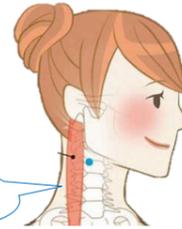
国内外問わず旅行、映画、人形づくりはプロ級のような。自作のお人形の写真です。



会員交流広場 *Salon de Y Y*

今年は長引く雨に、気圧の変化の激しい時期が続きました。そんな時は自律神経のスイッチがうまく切り替わらず体調を崩される方が多いものです。そこで今回は自律神経を整える効果があると言われる胸鎖乳突筋のストレッチを案内します。胸鎖乳突筋のコリをほぐし伸ばしてあげるとリンパの流れが良くなり、それによって自律神経のバランスが整います。*首の痛い方は無理せずに

胸鎖乳突筋



- ① 椅子に座り、右手を左の耳の上あたりに置きます。反対の左手は椅子をつかんでいるとより首が伸びます。
- ② 手で首を右のほうへ倒し息を吐きながら 30 秒数えます。反対も同様に行ってみてください。NPO 理事 長尾

ご寄付のお礼 皆様のご支援により支えられています。

2018年7月～2019年7月にご寄付いただいた皆様（敬称略・順不同）

徳森敬子・田口美穂・大庭みづほ・新田和子・高田京子・中村道子・日向野明子・加藤きく子
東京 YWCA 専門学校同窓会ヒューマンサービスコース・生野のぞみ・新田和子・外池いづみ
近藤真里子・鍋田都・石橋社会保険労務士事務所石橋さなえ・宮本久子

特定非営利活動法人東京 YWCA ヒューマンサービスサポートセンター入会のご案内

会員数 91（正会員 79 団体会員 3 賛助会員 9） 2019年6月末日現在

～会員になって、東京 YWCA ヒューマンサービスサポートセンターを支えてください。～

会員特典：NPO 主催の講習会費の割引、講師派遣研修費の割引等があります。入会申し込みは事務局まで。

会費・寄付金等振込先

年会費：正会員 3,000 円/年 賛助会員 一口 10,000 円/年 団体会員 20,000 円/年

◆株式会社 ゆうちょう銀行 記号 10170 番号 80995501

◆三菱UFJ銀行 神田支店 口座番号 普通預金0138637

口座名義

特定非営利活動法人 東京 YWCA ヒューマンサービスサポートセンター

発行所 特定非営利活動法人 東京 YWCA ヒューマンサービスサポートセンター

発行人：石井須美子 編集人：長尾恵理子 蛭原まゆみ

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台一丁目8番11号 東京 YWCA 会館216室

TEL・FAX 03-6273-7134

E-Mail：info@ywca-hssc.jp ホームページ：<http://ywca-hssc.jp/> 東京 YWCA hssc で検索

2019年8月13日～15日 夏季休暇をいただきます。



特定非営利活動法人 東京 YWCA ヒューマンサービスサポートセンター

会報

見守り

支え

伝え合う

私たちは、福祉・介護の仕事のゆたかさを広げる活動を推進します



18号
2019年7月

2019年度会員総会報告 2018年度事業報告 P2

2019年度事業計画 P3

特集 福祉のしゃべり場 P4,5

東京 YWCA 専門学校 卒業生活動紹介 親睦会報告 P6

講師紹介 P7

スタッフ紹介

Salon de Y Y P8

年次総会を終えて

特定非営利活動法人東京YWCAヒューマンサービスセンター理事長 田島 誠一



理事長として迎える初めての年次総会を、会員の皆様の強力な協力で終えることができました。

出席した会員の皆様から活発なご意見をいただき、2018年度事業報告・決算、2019年度事業計画・予算を承認いただきました。感謝申し上げます。

2019年度は、東京都の補助事業である保育士等キャリアアップ研修に新たに取り組み事業量は大幅に増えました。この研修を通して保育分野への事業展開に向かう手がかりを得ることができましたが、自主事業である研修・講師派遣事業は目標を達成することができず、決算は厳しいものとなりました。研修・講師派遣は数年にわたり減少を続けていてそのまま放置することはできない課題です。現場からは「人材不足だから研修に割く時間が確保できない」という声があがってきますが、そのような時だからこそ人材育成が重要であり、厳しい状況だからこそ、将来の核となる人材を育て、新たに加わってきた者が仕事を継続できるように援助することが大切です。

広告や人材紹介会社などに払う費用ばかりが増加しているような状況を断ち切り、サービスの質を向上させ、職員の成長を促すことが、こうした時だから取り組むべきことです。厳しい環境をふまえながらも、階層別・テーマ別研修、複数施設連携の研修など、オーダーメイドの人材育成策を提案し、業績の回復を目指して行きます。

私たちは、縁（えにし）を築いた法人・事業所やそこで働く人達のために最善を尽くします。昨年度始まった「しゃべり場」も、小さな芽ですが、新しい縁をつくる希望の芽です。私たちは、小さな存在かもしれませんが、私たちの全ての取り組みが、利用者・家族、地域社会の福祉（しあわせ）に繋がると信じているからです。

2018年度 事業報告 (2018年4月1日から2019年3月31日)

I. 事業に関する事項

法人理念「対人援助の仕事にかかわる人たちの成長を支援し、福祉、介護の仕事のゆたかさを広め、利用者へのより質の高い支援の実践が広がることを目指す。」に基づき、講師派遣事業に加えて、新規事業として「東京都保育士等キャリアアップ研修」（以下キャリアアップ研修）の研修実施機関として認可を受け研修事業を実施した。

1. 講師派遣研修

講師派遣事業は、新規の契約が2件あるも、継続研修の規模が減少するなどの影響で、事業収入は減少となった。研修への参加状況にも課題が見られ、計画された研修の受講者が2~3名となる研修が複数回あった。また、高齢者事業所の担当者からは「人材育成の必要性を感じているが、今は研修に人を割けない」との意見が多く聞かれた。厳しい状況だからこそ、職員の育成に力を入れることが人材確保につながることを信じて粘り強く働きかけるも、契約拡大には至らず厳しい状況であった。

2. 講座 講習

キャリアアップ研修の実施機関として認可を受け研修事業を実施した。事業を進めるために必要な事務局体制を整えた。研修は、4つの分野7名の講師の協力のもと12回実施した。研修に先立ち講師会を開催。研修の仕組みと当法人の目指すキャリアアップ研修の目標、保育士を取り巻く現状と課題について意見交換を行い、協力体制を構築しながら取り組んだ。

12回の研修の修了者は、635名。終了後実施したアンケートの研修では、4分野とも研修内容と教材の内容について、90%以上が良い評価だった。4分野とも「スキルの向上につながったか」「職場で活用できるか」などの質問に平均で95%以上の人が「はい」と回答しており、満足度の高い研修であったことが確認できた。

3. 福祉啓発事業

「福祉のしゃべり場」を2回開催 開催時間：13:30~15:30

1回目10月6日(土)参加者8名・2回目2月16日(土)18名 参加者は全員YWCA専門学校福祉科卒業生。

4. 会員活動

総会后、親睦会実施 20名の会員が参加。会員相互に近況を話しながら親交を深めた。

5. 広報

1) 会報:16号・17号(7月と12月)各800部発行。昨年より500部増刷版、キャリアアップ研修受講者に配布。

講師派遣研修 講師の紹介

2019年度 新たに講師として活躍してくださっている先生方をご紹介します。

岡部 卓先生

Q1,講師になったきっかけは(YWCAとの関係)

以前、東京YWCA専門学校で非常勤講師を、また本年4月より東京YWCA会館の前にあります明治大学で教員として勤めることになり、ご挨拶にうかがったことを契機に講師のお話をいただきました。

Q2,これまでのお仕事と専門分野

10年間福祉のフィールドで働いた後に、教員として日本社会事業大学・日本社会事業学校、東京都立大学・首都大学東京、そして現在、明治大学に勤めています。

大学では、社会福祉制度論、公的扶助論、地域福祉論、高齢者福祉論を講義しています。

Q3,先生が研修の中で一番伝えたいこと、又は大事にしていることはどんなことですか?

社会福祉は、人びとの困難に寄り添い多様な生の可能性を追求することにあると考えます。それは、支援者にとっての成長や幸せにつながります。どのような人にも幸せに生きる権利があります。

一人ひとりの幸せを大切にしていける社会をつくることにかかわっていただければと願っています。

Q4,先生のチャームポイントを教えてください。

とりたててチャームポイントといえるものは持ち合わせていません。

強いてあげれば、どの場面においても等身大の自分を出して生きていること、でしょうか。

佐々木 炎先生

Q1,講師になったきっかけは(YWCAとの関係)

私の関わる社会福祉法人の研修に来られ、とても素晴らしい企画とフォローを見させていただいたこと。また、講師の方々と親睦があり、多くのことを学ばせていただきたいと思ったこと。そして何よりもこの研修の理念に共感したこと。

Q2,これまでのお仕事と専門分野

介護福祉士、主任介護支援専門員として現場に携わっている。また、介護福祉士養成校で「尊厳」「倫理」「コミュニケーション」を教えている。その他、「スピリチュアルケア師」「認定介護福祉士」「臨床宗教師」の講師を務めている。専門は「看取りケア」「認知症」「尊厳」「地域共生社会」である。牧師でもある。

Q3,先生が研修の中で一番伝えたいこと、又は大事にしていることはどんなことですか?

介護は人類にとって素晴らしい価値ある仕事であるという矜持を「職員」自身に持ってもらうこと。

Q4,先生のチャームポイントを教えてください。

一緒に考えることを大切にしていること。

佐々木炎先生 書籍紹介 NPO事務局(石井)

「どん底から見える希望の光—ともに生きる福祉(ケア)の実践—」

佐々木先生が、出会った方々との関わりを通して、一人の人間として、支援者としてどうあるべきかを考えさせてくれます。人として尊厳を持ち続けるために何が必要か。

一人ひとりが持っている可能性を発揮できるようになるにはどのように支援することが必要か。偏見を捨て、あるがままのその人と出会うためのヒントを教えてください。内容となっています。

《感想》

著書を読ませていただき、涙がこぼれました。すばらしい方々との出会いから、多くの学びを得ることができ感動しています。「福祉・介護の仕事の豊かさを広めていきたい」と考えている我々NPOの理念を示してくれていると感じました。

*NPO事務局でもお取り扱いしています。価格864円(著者割引を適応)



自己紹介

専門学校卒業して27年。某区役所、特養、デイ、ずっと認知症のご本人、家族支援の仕事をしていました。認知症の方もそうでない方もみ～んな一緒につながることができるタッピングタッチに惹かれました。

現在は、千葉市の海っぶち、美浜区磯辺という町で障害のある方々とタッピングタッチカフェ(地域活動支援センターくるみ)を開いています。以下、タッピングタッチケアのご紹介をします。



トントン、ぽこぽこ、タッピングタッチ! ~あなたのために私のために~タッピングタッチを楽しみませんか

●タッピングタッチは指先の腹のところでトントンと優しく触れるだけのからだどころに効くホリスティック(統合的)なケアの方法です。トントン、ぽこぽこ、触れる場所とタッチのやり方がいくつかあります。いつかご紹介する機会があるといいですね。

「くすりや専門家ばかりに頼らないケア」

開発者である中川一郎さん(臨床心理学者)は、アメリカで長年、心の病やストレスを抱えた人々とかかわりあってきて、「触れる、ケアし合う」ことにポイントをおいたタッピングタッチを考案しました。

「簡単なので子ども、高齢者、障害のある方、誰でも、し合ったりできる」

地域の中で一人暮らしや核家族が増え、何かとストレスの多い今日この頃、タッピングタッチを多くの人たちが学びお互いをケアすることで、個人、家族、コミュニティの健康が促進されます。

「何が起こるか」

のんびりと15分くらいタッチするだけで、なぜかしら、とろ～んと心身がほぐれていきます。リサーチでは脳内物質のセロトニン、オキシトシンを活性化し、うつ予防、不眠予防にも効果があります。

「関係性の効果」

家族関係が良くなり、また施設などに、なじめない、親しくなれない方、認知症の方がタッピングタッチでほっとして楽しい関係になったりします。

「広域災害が起こった時」

熊本地震、東日本大震災、阪神大震災等、避難所、仮設住宅等で起こるストレス、不安、不眠の軽減に訓練を受けたボランティアが、タッピングタッチで心のケアを行いました。避難していた住民の方々もタッピングタッチを学び、ボランティアがいなくてもお互いにすぐ、利用出来ます。

~ゆっくりやさしくていねいに~ タッピングタッチの基本はお互いをケアすることです。お互いを大切に作る時間を楽しんでください。



会員親睦会

6月22日の会員総会后、親睦会が行われました。総会からの参加者と、親睦会には間に合い参加された方19名が会食をしながら話に花を咲かせました。東京YWCA 専門学校時代の懐かしい先生方を囲み卒業生たちから近況報告。



皆さん笑顔で、はいポーズ



2) ホームページの活用: キャリアアップ研修の受付は、ホームページからおこなうため、当法人への閲覧が増えた。

II. 運営に関する事項

1. 会員総会 2018年6月16日 13時30分~15時 東京YWCA会館 217室
出席者20名 (内訳 正会員19名 賛助会員1名) 表決委任者 31名
審議事項 次の1~3号議案については、満場一致で承認可決。1号議案 2017年度事業報告・収支決算について 2号議案 2018年度事業計画案・予算案について 3号議案 理事、監事の選任について
2. 理事会の運営 4回 開催
臨時理事会 6月16日(土) 15:00~15:30(会員総会后) 理事の互選により全一致で田島誠一氏が理事長に選出
3. 会員の状況
2019年3月31日現在 正会員 個人:74名(1名退会2名入会) 団体:4 賛助会員:8名
4. 事務局体制
理事長:田島 誠一 事務局長:専任 事務:専任 1名 非常勤2名 事務局会議:原則毎週月曜日

2019年度 事業計画 (2019年4月1日 から 2020年3月31日)

I. 事業に関する事項

法人の掲げる理念・使命の実現に向けて高齢者、障がい者福祉に加えて、こども福祉分野を含めた事業を、東京を中心として実施する。2018年度から取り組んだキャリアアップ研修を継続。この経験を活かし保育園への講師派遣研修及び講座の開催を計画し、保育士の人材育成に貢献し使命の実現を目指すとともに、安定した事業展開を進めていく。

高齢者分野においては、福祉人材の確保が難しい中、人手不足が続き職員の教育に時間を割くことが難しい状況が続いている。しかし「人材の育成・定着なくして人材確保は図れない」という考えを明確にし、人材育成を推し進め定着率を高めるための取り組みについて具体的な提案を行っていく。NPO の目指す理念の実現を目指し、厳しい社会情勢の中にある対人援助にかかわる人たちの成長を願い、講師派遣研修の次の展開に向けて挑戦する1年としていきたい。

1. 講師派遣事業

多くの高齢者福祉事業者が抱えている、人材確保に向けての取り組みとして「魅力ある職場」を創生するために人材育成を進め、職員の定着を図っていくことを謳い、広報活動に力を入れていく。

新たな取り組みの一つとして、人材不足でまとも研修に出すことが難しい事業所法人に向けて、地域の社会福祉法人が連携し、複数の法人が合同で実施する講師派遣研修の可能性について取り組みを進め、モデル事業としていく計画を立て広報を進めていく。これまで関わりを持つ複数の社会福祉法人に積極的に働きかけていく。

2. 講座 講習

1) キャリアアップ研修は、14回の開催を予定。「障害児保育」・「食育・アレルギー対応」・「保護者支援・子育て支援」・「マネジメント」の4分野の研修を計画、それぞれ3回~4回の実施を計画している。当法人の目指すキャリアアップ研修は、「受講者一人ひとりが自身の人間観・福祉観・保育観を確認できる研修となり、保育の質の向上を目指して進めていく。研修分野の違いを超えて、4つの研修プログラムが統一的内容となるよう協力、調整して共に作り上げていく」この考えのもと講師との連携を図り、担当者間の連携を密にし、受講者の満足が得られるよう研鑽していく。

2) 『1日で学ぶ園長・主任・事務長のためのマネジメント講習会』の開催 9月28日(土) 9:30~16:30
募集定員 48名 講師:遠藤久江氏・田島誠一氏 詳細については、チラシを参照

3. 福祉啓発事業

「福祉のしゃべり場」7月27日(土) 13:30~ 開催 他 11月2月にも開催予定。

4. 会員活動 親睦会の開催: 会員総会の後、親睦会を開催。

5. 広報 1) 会報の発行 年2回 各500部 2) ホームページの活用 3) パンフレット及びチラシの作成

II. 運営に関する事項

1. 総会の開催: 年1回
2. 理事会の運営: 年3回
3. 会員の状況: 会員の数値目標を正会員 個人80名とする。(2019年3月31日現在74名)
4. 事務局体制: 理事長 田島 誠一 事務局長: 専任 事務: 専任 1名 非常勤2名 事務局会議: 毎週月曜日

特集 2018年度からスタート！「福祉のしゃべり場」2回の活動を終えて

2019年度は3回実施の予定（7月27日開催、以降2回予定）

「福祉のしゃべり場」への思いと期待

東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター 理事 蛭原まゆみ

東京YWCA専門学校（以下Y）には、日々卒業生たちが訪れ「原点にもどり、新たなエネルギーをもって」また、日々の仕事に向かえる場所であったと思います。Yの閉校後、NPO法人東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター（以下NPO）を立ち上げた目的の中にも、卒業生が戻る場所を残したいという思いがありました。

発起人（第19回卒業生）との何気ない会話の中で、「福祉のしゃべり場」の構想が浮かびました。

Yの実習指導方法やグループでの学びを活用することが、新たな

発見と気づきにつながり、悩みの解決のヒントや視野の広がりにつながるのでは 第2回参加者全員でパチリ
ないかと考え、「福祉のしゃべり場」の構想を練りました。2018年度NPOの会員活動と位置付け、発起人を中心として実施しました。開催に向けた準備～実施された2回を通し、発起人の大きな力が発揮され、また、陰で応援くださる方々のご協力をいただき、「見守り」「ささえ」「伝え合う」というNPOのキャッチフレーズを実践する場となることを願いつつ、理事として協力してきました。

「しゃべり場」が、地域や家庭での生活の中、対人援助の仕事をする中で、重荷をおろす時間となり、共に歩んでいる人達の経験に聴き、思いに触れることが、少しでも福祉現場で働く人たちの一助になってゆけることを願います。また、勉強会や講座・講演会などの企画やNPOへの提案に繋がる活動までに成長できればうれしいことです。



第2回参加者全員でパチリ

♡ 発起人の熱い思い ♡



発起人の河瀬さんと野崎さん

東京YWCA専門学校福祉科 ケアワークコース卒業生 河瀬 玲子

『福祉のしゃべり場』をはじめたきっかけは、野崎さん、蛭原先生と仕事の悩みを話していたとき、視点が変わるだけで楽になる事を感じました。きっと、私たちみたいに悩みや葛藤など色々な思いを抱えて仕事をしている人が沢山いるのでは？と感じるようになりました。

Yで学んだ卒業生が集まり、学生の時の実習指導の様な雰囲気の中で、職場以外の人に話しをする事で、今までと違った考えや気づきができ、

違う景色が見えてくるのでは？と思うようになりました。第1回目は始まる前、不安でいっぱいでしたが、いざ始まると皆さんが積極的に悩んでいる事やその悩みに対しての感想やアドバイスを話して下さり、自分の仕事に照らし合わせて話しを聞く事が出来、とても有意義な時間になりました。私自身、退職するか迷っていた時期でしたが、『福祉のしゃべり場』を開催し、皆さんからの意見を聞いてもう少しこの仕事してみようかな？迷ったらここに来て相談しようと思えた場所でした。参加した皆さんも『また明日から福祉の仕事をもう少しやってみよう』と思う力が湧いてくるような場所であつたらいいなと思っています。

『福祉のしゃべり場』は、まだまだ手探りの部分もありますが、みんなで作り上げていく場でもあります。ここに来て良かった！と思ってもらえるような場所をこれからも作っていきたいと思います。

第二回は、18名の方が参加して下さい「利用者支援」「虐待」など日々の支援について皆さんが感じている不安や悩みを打ち明ける場となりました。短い時間ではありましたが、とても有意義な意見交換の場となりました。私は日々、時間に追われて支援をしていることもあると反省し、Yで学んだ、利用者がいて職員がいるということを改めて思い出せた場所でした。私自身、ここに来ると、原点に立ち返ることができ、自分の利用者支援についてもう一度考え直せる場所となっています。

東京YWCA専門学校福祉科 ケアワークコース卒業生 野崎 希実

発起人として『福祉のしゃべり場』にかかわることが出来て、とても勉強になりました。

第二回の『福祉のしゃべり場』では、私の関わってきた、依存のつよい利用者との関係について、皆さんから意見を聞くことが出来ました。特に障害のあるお子さんの生活や特性を伺い、「はっきりとわかりやすく伝えることが、親切」とのアドバイスを受けて、「はっきり伝える・わかりやすく簡潔に伝える」ことが自分は苦手なので、難しさも感じますが、自分を変えてみよう！とも思いました。

また、周囲の人に意見を聞きながら支援をしていますが、会議で話す勇気はありませんでした。話し合いのできる「会議」の大切さと、利用者支援について、目的をもってできるように、会議に挙げる勇気も必要だと気づきました。

今回は『しゃべり場』に参加したメンバーに、自分の発言に対して一緒に考えもらい、メンバーの意見を聞いたことで気づくことができました。

次の回では、ほかの方の悩みで挙げられていたこと（虐待について・久しぶりの仕事で、その方法は古いといわれてショックを受けた新しい介護について・時間に追われる仕事と本当の支援とは等）を、話し合いたいと考えています。



話したいこと、聞きたいこと、話題はつきません。

東京YWCA専門学校福祉科卒業生の紹介

「しゃべり場に参加して思うこと」 ヒューマンサービスコース卒業 忠地 三枝子さん

私は、もともと障害のある子どもの親の会として障害児の学童保育を運営、東京YWCA専門学校（以下Y）卒業後は、NPOを立ち上げ、移動支援、グループホーム、余暇活動の場等、NPOの仲間と共に障害者支援の場を広げ活動してきました。

職員も増え、親中心の運営から職員の人たちへと仕事も親の思いもひきついでらう時期にきていることを感じています。そのような時の「福祉のしゃべり場」のお誘いでした。

現場の人たちの思いをきき、自分たちの活動に活かすことが出来ればと思い参加しました。

「しゃべり場」で、働く側の葛藤や、自分の思いと現実のギャップ、伝わらない思いや不安、等々、率直な声を聞くことが出来て、私たちの法人でも、同様の思いを抱えながら働いてくれていることを改めて感じました。

福祉を必要とする人たちにとって、親や支援者が生き生きと楽しく働いてくれることは、とても大切なことだと思います。

ひとりでは、答えが出せないことも、他の人達と意見を出し合いながら答えを探して行く、そしてちょっと元気になって現場に戻る、そんな場が「しゃべり場」なのではないかと思いました。

Yでの学びですべてに共通していたのが、『主体的に学ぶ』ということだったように思います。自分の意見を伝える、人の意見を聞く、話し合う、記録し自分を振り返る、この繰り返しだったような……。それらは、一人ひとり違う人たちと、一人ひとり違う私たちが向き合っただけでなく福祉の現場に欠かせないことだったのだと思います。



一人の発言をみんなで考えます。

東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター
HPで「福祉のしゃべり場」
のお知らせ掲載中